

寺山修司／「書を捨てよ町へ出よう」「レミング」関連企画 登壇者プロフィール

11月2日（月）「書を捨てよ町へ出よう」映画のオリジナルクリエイターが語る会

佐々木英明（ささき・えいめい）／映画版「書を捨てよ町へ出よう」主人公（私）役



1948年、青森県・平内町出身。詩人、1968年県立青森高校を卒業し、寺山修司が主宰する演劇実験室「天井桟敷」に参加。舞台「書を捨てよ、町へ出よう」、「邪宗門」、「阿片戦争」他に出演。映画「書を捨てよ、町へ出よう」主演、1972年、天井桟敷退団。1987年帰郷。現在は、詩作に励みつつ、朗読会、演劇、講演などの活動を精力的につづけている。詩集、「愛について」（1993年）、「心を閉ざす」（1996年）、「刈株集」（2010年）がある。2012年4月より三沢市寺山修司記念館館長。

鋤田正義（すきた・まさよし）／映画版「書を捨てよ町へ出よう」撮影監督



1938年福岡県生まれ。日本写真専門学校卒業後、棚橋紫水氏に師事。広告代理店大広を経て65年に上京、デルタモンドに入社。60年代にAPA、ADCなど受賞。1969年のウッドストックのコンサートを知り、以来サブ・カルチャーに興味を持つようになり、ニューヨークやロンドンへ撮影に出かける。広告・音楽・映画などの仕事で今日に至る。

2009年、ブルックリン・ミュージアムで開催された写真展「Who shot Rock&Roll」に参加。2012年、40年間撮り続けてきたデヴィッド・ボウイの写真をまとめた写真集「BOWIE×SUKITA Speed of Life 生命の速度」を英国ジェネシス出版より発売。

2012年8月、東京都写真美術館、渋谷パルコミュージアムを皮切りに福岡、大阪、舞鶴にて写真展「sound & vision /きれい」を開催。

森崎偏陸（もりさき・へんりっく）



1949年兵庫県淡路島生まれ。17才で高校中退、家出。以来、寺山修司に師事。演劇実験室「天井桟敷」では音響を主に担当。寺山の映画では助監督と記録、写真では紙焼き、新聞・雑誌ではデザインを担当。荒木経惟写真集の編集・デザインも手がけている。パルコ映画「ウンタマギルー」「プ」の助監督、高橋伴明監督「愛の新世界」のタイトルデザインなども担当。ほかに白石加代子「百物語」の音響、日本舞踊の水木佑歌、花柳ゆかしなどの演出、SONYブラックトリニトロン、寺山修司監督作品「ローラ」「審判」「青少年のための映画入門」などでは俳優としても出演し、「ローラ」上映のためにベルリン映画祭、エジンバラ映画祭、台湾映画祭などに参加出演している。

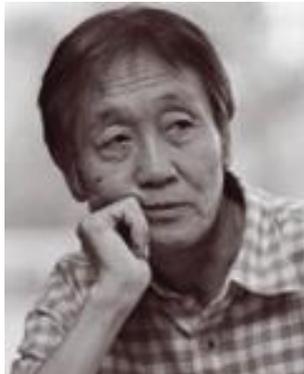
[司会]榎本了孝（えのもと・りょういち）



1947年東京生まれ。クリエイティブ・ディレクター、プロデューサー。株式会社アタマトテ・インターナショナル代表。京都造形芸術大学客員教授。大正大学表現学部特命教授。日本文化デザインフォーラム理事・副代表幹事。1969年渋谷天井桟敷館のデザインを栗津潔氏と製作。1971年寺山修司監督作品『書を捨てよ町へ出よう』美術担当。1974年月刊『ビックリハウス』（パルコ出版）を萩原朔美と創刊。以降、デザイン、編集、出版、文化イベント等の仕事を展開する。著書＝『ダサイズムの逆襲』『御教訓大全』（パルコ出版）。『おくのほそ道・裏譚』『劇句×掌篇 春の画集』（新風舎）。『タタラ風の町』（頭手舎）。『東京モンスターランド』（晶文社）。など。

11月14日（土）『演出家対談』

松本雄吉（まつもと・ゆうきち）／「レミング～世界の涯まで連れてって～」演出



1970年に大阪で「日本維新派」（87年に維新派と改名）を結成し、1974年以降の全て作品で脚本・演出を手掛ける。維新派は、主宰の松本を軸として常に「演劇」いう枠では語りきれない演劇的活動を続けてきたことで知られる集団。野外に自らの手で建築する劇場、数々の映画の美術監督として知られる林田裕至による圧倒的な美術、「ジャンジャン☆オペラ」と名付けた関西弁のイントネーションを生かしたケチャ音楽のような台詞、インプロヴィゼーションユニット「アルタード・ステイツ」を率いて世界でも評価の高い内橋和久の音楽という、すべての要素をディレクションした前衛的な総合芸術として作品を発表している。1996年大阪府舞台芸術奨励賞、1999年大阪府舞台芸術賞、2002年朝日舞台芸術賞、2004年読売演劇大賞優秀演出家賞、2008年朝日舞台芸術賞 アーティスト賞、2008年芸術選奨文部科学大臣賞、2011年紫綬褒章、2013年大阪市市民表彰を受賞した。最近の演出作品には『MAREBITO』（2013年、岡山・犬島海水浴場、瀬戸内国際芸術祭参加作品）、『石のような水』（2013年、京都・京都芸術劇場春秋座／東京・にしすがも創造舎、演出および美術）、『十九歳のジェイコブ』（2014年、東京・新国立劇場／兵庫・兵庫県立芸術文化センター）、『透視図』（2014年、大阪・中之島GATEサウスピア）維新派新作野外劇『トワイライト』（2015年、奈良・曾爾村健民運動場）などがある。

藤田貴大（ふじた・たかひろ）／「書を捨てよ町へ出よう」演出



マームとジプシー主宰・演劇作家。1985年生まれ。2007年にマームとジプシーを旗揚げ。以降全作品の作・演出を担当する。12年『かえりの合図、まったた食卓、そこ、きっと、しおふる世界。』で第56回岸田國士戯曲賞を26歳で受賞。その独特な手法は演劇のみならず、様々なジャンルの作家や批評家から評価を得る。13年漫画家・今日マチ子原作『cocoon』を舞台化。独自の手法を駆使し、女子高生の瑞々しい感性を通して戦争の生々しい感覚を観客に体感させる演出が絶賛された。演劇以外の活動としては、今日マチ子との共作漫画『mina-mo-no-gram』（秋田書店）や短編小説の発表など、その活動は多岐にわたる。14年9月-10月には、野田秀樹作「小指の思い出」を東京芸術劇場プレイハウスにて演出を行い、今夏、沖縄戦に動員された少女たちから想を得て描いた傑作「cocoon」が再演。

〔司会〕 山口宏子（やまぐち・ひろこ）



1960年生まれ。83年朝日新聞社入社。支局勤務を経て、東京本社で演劇を中心に取材、批評などを執筆してきた。西部本社（福岡）、大阪本社にも勤務。編集委員などを経て、現在は論説委員（文化担当）。2003～04年、早稲田大学演劇博物館客員研究員。09～10年、NHK-BS2（現・BSプレミアム）の「ミッドナイトステージ館 演劇はいま」で司会を担当した。

11月30日（月）『寺山修司没後30年から生誕80年、テラヤマ・ワールドの行方とは？』

笹目浩之（ささめ・ひろゆき）



1963年茨城県生まれ。1987年に株式会社ポスターハリス・カンパニー設立。90年より演劇・映画祭・イベントの企画・宣伝・プロデュースも多数手がける。94年、現代演劇ポスター収集・保存・公開プロジェクトを設立。1983年以降の寺山修司関連イベントに多数携わり、現在は、株式会社テラヤマ・ワールドの代表取締役として寺山修司の著作権管理を担当。2009年より三沢市寺山修司記念館の指定管理者になり、同年副館長に就任し、現在にいたる。編著に『ジャパン・アヴァンギャルドーアングラ演劇傑作ポスター100』PARCO出版。著書に、『ポスターを貼って生きた』PARCO出版、『寺山修司とポスター貼りと。』KADOKAWA。